

エコアクション21 環境経営レポート

対象期間 令和 6年 4月 ~ 令和 7年 3月



(次回発行日 2026年 4月頃)

第15版 2025年 4月 30日発行
初版 2011年 4月 8日発行



植田興業株式会社

目 次

1 組織概要	P.1
2 対象範囲(認証・登録範囲)、レポート の対象期間及び発行日	P.2
3 環境経営方針	P.3
4 環境管理実施体制	P.4
5 環境経営目標	P.5
6 環境経営活動計画	P.6
7 環境経営目標の実績	P.7-P.8
8 環境経営活動計画の取組結果 とその評価	P.9
9 次年度の取組内容 (1)環境経営目標 (2)環境経営活動計画	P.10-P.11
10 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P.12
11 代表者による全体評価と見直し ・指示結果	P.13
12 環境活動状況	P.14

1. 組織概要

(1) 事業所名及び代表者

植田興業株式会社 代表取締役社長 植田 英喜

(2) 所在地

【本社】 〒787-0050 高知県 四万十市 渡川 1丁目 10番25号
TEL:0880-37-2311 FAX:0880-37-1014
E-mail:akame@galaxy.ocn.ne.jp

【本店】 〒787-0158 高知県 四万十市 山路 2494-1
TEL:0880-36-2101 FAX:0880-36-2102

【楠島倉庫】 資材及び重機置場
〒787-0666 高知県 四万十市 楠島 1848

(3) 環境管理責任者

常務取締役:井上 博文 TEL:0880-37-2311
E-mail:inoue-h@ueta-kk.co.jp FAX:0880-37-1014

(4) 環境副責任者

総務部:吉村 千登勢 TEL:0880-37-2311
E-mail:yoshimura-c@ueta-kk.co.jp FAX:0880-37-1014

(5) 事業活動の内容

建設業(主に道路改良工事・河川工事などの土木工事を行っています。)

建設業の許可番号 : 特定建設業 高知県知事 許可(特-4) 第717号
許可年月日 : 令和 4年 8月 14日
建設業種類 : 土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業
舗装工事業、しゅんせつ工事業、水道施設工事業、
造園工事業、解体工事業

ISO9001: 2000年1月 認証取得 継続中
BCP: 2010年3月 認定 継続中
消防団協力事業所: 2011年2月 総務省消防庁認定
交通エコポイント活用還元事業 2014年 5月 継続中

(6) 事業規模

設立年月日 : 昭和32年9月17日
資本金 : 3,000万円

会計年度(事業年度) 4月～3月

活動規模	単位	令和3年	令和4年度	令和5年度	令和6年度
工事等の件数	件	6(8)	3(5)	5(7)	5(7)
完工高	百万円	1017	720	926	784
従業員(役員含む)	人	33	35	35	35
事務所床面積	m ²	559	559	559	559
倉庫床面積	m ²	500	500	500	500
資機材置場面積	m ²	300	300	300	300
工場・作業所等床面積	m ²	70	70	70	70

* 工事等の件数の()内の数字は、繰越件数を含む

* 従業員数は、令和7年4月1日現在

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

(1) 対象範囲(認証・登録範囲)

植田興業株式会社 全社

本社 : 高知県 四万十市 渡川 1丁目 10番 25号

本店 : 高知県 四万十市 山路 2494-1

楠島倉庫 : 高知県 四万十市 楠島 1848

対象事業 : 建設業

(土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業、
舗装工事業、しゅんせつ工事業、水道施設工事業、造園工事業)

(2) レポートの対象期間 令和 6年 4月 ~ 令和 7年 3月

(3) 環境経営レポートの発行日 令和 7年 4月 30日

(4) 次回環境経営レポートの発行日 令和 8年 4月頃

(5) 作成責任者 環境管理責任者 井上 博文

対象となる持続可能な開発目標(SDGs)の範囲



目標No.	取組対象の有無	項目	対象項目の主な取組内容
1		貧困をなくそう	
2		飢餓をゼロに	
3		すべての人に健康と福祉を	
4		質の高い教育をみんなに	
5		ジェンダー平等を実現しよう	
6	○	安全な水とトイレを世界中に	節水・雨水使用・河川水使用
7	○	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	CO ₂ 排出削減
8		働きがいも経済成長も	
9		産業と技術革新の基礎をつくらう	
10		人や国の不平等をなくそう	
11	○	住み続けられるまちづくりを	ロードボランティア等の社会奉仕活動
12	○	つくる責任つかう責任	環境負荷配慮工事など
13	○	気候変動に具体的な対策を	廃棄物削減・グリーン購入
14		海の豊かさを守ろう	
15		陸の豊かさを守ろう	
16		平和と公正をすべての人に	
17		パートナーシップで目標を達成しよう	

3. 環境経営方針

植田興業株式会社は、風光明媚な高知県四万十川の流域に位置し、土木工事業を通じて、循環型社会の構築に貢献してまいります。

環境経営理念

当社は、山・川・海の全て揃った素晴らしい幡多地域の自然環境を次代に繋いでいくために、地球環境に与える環境負荷を少しでも削減し、適用する法令類及びその他要求事項の遵守に社員一丸となって取組み継続的改善による環境経営を行ってまいります。

「基本方針」

1) 電力・化石燃料の削減

電力の使用や化石燃料の使用を削減し、二酸化炭素の排出量を削減します。

2) 水道水の削減

水道水の使用を出来る限り控えて、水資源の保全を図ります。

3) 一般廃棄物の削減

会社全体でペーパーレス化に取組み一般廃棄物の削減に取組みます。

4) 産業廃棄物の削減

本社・建設工事に於ける産業廃棄物の削減及びリサイクルに取組みます。

5) 社会奉仕

地域周辺の環境に対する貢献やボランティア活動へ積極的に取組みます。

生物多様性の保全を目的とする四万十川自然再生事業(四万十川自然再生協議会)に積極的に参加し取組みします。

6) 業務活動における取組

環境を配慮した資材で構造物実現に努めると共に、周辺環境にあった工法で構造物を作ります。

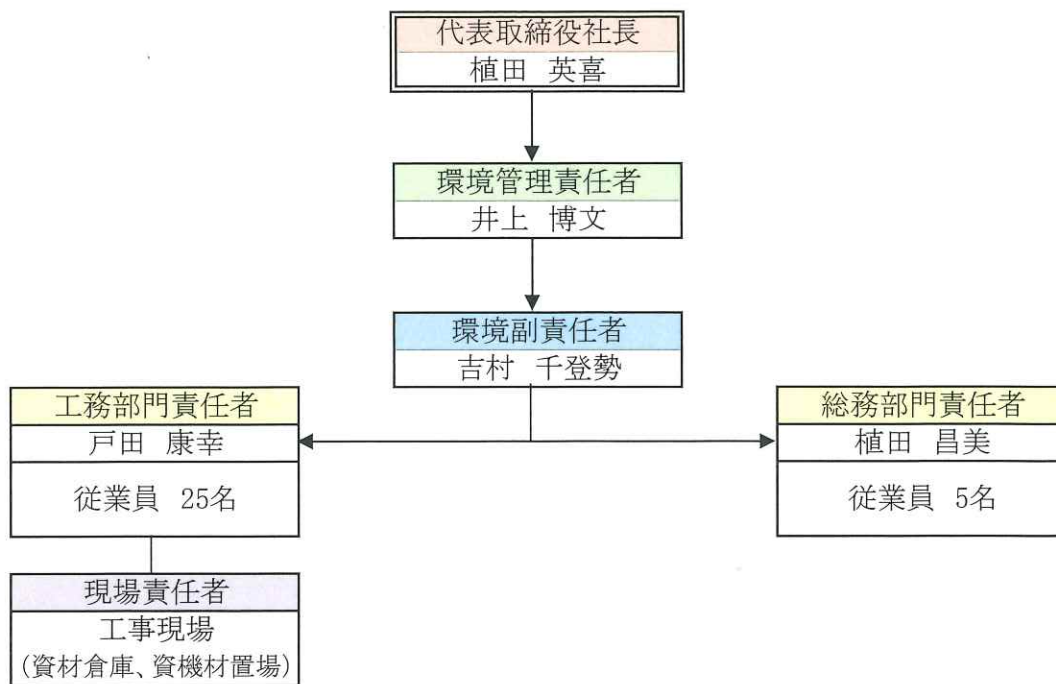
- ・ 環境経営方針は、全従業員に周知し、環境保全意識の向上を図ります。
- ・ 環境への取組みを環境経営レポートとして取りまとめ、外部に公表します。



令和 4年 4月 1日 改訂
平成22年 12月20日 策定
植田興業株式会社
代表取締役 社長:

植田英喜

4. 環境管理実施体制



環境管理システムの役割・責任・権限

役職名	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任及び運営 環境経営方針の決定及び周知徹底 管理責任者の任命、経営資源の準備提供、環境実施体制の構築 環境経営目標、環境経営計画、環境管理組織体制を承認 代表者による全体の評価と見直し・指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営の実施及び管理 環境関連法規等の取りまとめ(最新版含む) 環境経営目標及び環境経営計画、環境管理組織体制を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 社長指示事項の対策 事故及び緊急事態等のテスト結果承認 環境経営レポートの確認
環境副責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷・環境への取組の自己チェックの実施 環境経営レポートの原案作成・報告 環境目標活動の実績集計 環境経営目標及び環境経営計画の作成 環境関連法規等の取りまとめに基づく遵守評価及び従業員への周知 各部門で特定された事故及び緊急事態への対応手順書の作成 教育・訓練等の計画及び実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 関係者に於ける全ての項目の周知徹底(毎月8日定例会にて)
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 各部門に於ける環境経営の実施 各部門に関する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 各部門の問題点の発見、是正処置及び予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚し、決められたことを守り、自主的、積極的に取組む

5. 環境経営目標(2024年度)

(1) 単年度目標

項目	総量 原単位	単位	基準年(見直し)	2024年度
			2020年度 R2.4~R3.3	目標 R6.4~R7.3
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	15,451	14,500
	原単位	(ℓ/百万円)	27.74	26.03
軽油使用量	総量	(ℓ)	57,880	54,000
	原単位	(ℓ/百万円)	103.91	96.95
灯油使用量	総量	(ℓ)	1,100	1,030
	原単位	(ℓ/百万円)	1.97	1.85
電力使用量	総量	(kWh)	45,462	42,000
	原単位	(kWh/百万円)	81.62	75.40
CO ₂ 排出量	総量	(t-CO ₂)	221.0	210.0
	原単位	(t-CO ₂ /百万円)	0.40	0.38
用水使用量	総量	(m ³)	610	590
	原単位	(m ³ /百万円)	1.10	1.06
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	180.0	160.0
	原単位	(kg/百万円)	0.32	0.29
産業廃棄物排出量	総量	(t)	433	420
	原単位	(t/百万円)	0.78	0.75
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	100.0	100.0
グリーン購入量	総量	(%)	100.0	100.0
環境負荷の少ない工事	総量	(%)	100.0(5/5)	100.0
完工高	総量	(百万円)	557	557

「化学物質の使用はありません。」

*1. 電力のCO₂ 排出量については、電気事業者別のCO₂ 排出係数

○四国電力の調整後排出係数(令和3年1月7日公表)の0.411(kg-CO₂/kWh)を使用した。

○伊丹産業(株)の調整後排出係数(平成30年12月27日公表)の0.566(kg-CO₂/kWh)を使用した。

*2. グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境商品の購入金額割合(%)

*3. 環境負荷に配慮した工事

○リサイクル材、県産品等の使用

○低騒音、排出ガス対策型重機の使用

○ICT活用によるエネルギー消費の抑制

○濁水防止対策の実施

○周辺環境に合った工法・現場づくり

※環境負荷の少ない工事=環境負荷の少ない工事件数(件)÷該当する総工事件数(件)

○○% (件/件)

*4. 完工高

○前年度完成工事と繰越工事(3月末出来高)との金額とする。

(2) 中長期目標(2025年度～2027年度)

項目	総量 原単位	単位	2020年度	2025年度	2026年度	2027年度
			(令和2年度) 実績(基準年)	目標 R7.4～R8.3	目標 R8.4～R9.3	目標 R9.4～R10.3
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	15,451	14,300	14,000	13,600
	原単位	(ℓ/百万円)	27.74	25.67	25.13	24.42
軽油使用量	総量	(ℓ)	57,880	53,300	52,200	52,000
	原単位	(ℓ/百万円)	103.91	95.69	93.72	93.36
灯油使用量	総量	(ℓ)	1,100	1,010	1,000	900
	原単位	(ℓ/百万円)	1.97	1.81	1.80	1.62
電力使用量	総量	(kWh)	45,462	41,900	41,000	40,200
	原単位	(kWh/百万円)	81.62	75.22	73.61	72.17
CO ₂ 排出量	総量	(t-CO ₂)	221.0	200.0	190.0	180.0
	原単位	(t-CO ₂ /百万円)	0.40	0.36	0.34	0.32
用水使用量	総量	(m ³)	610	580	560	550
	原単位	(m ³ /百万円)	1.10	1.04	1.01	0.99
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	180	170	160	140
	原単位	(t/百万円)	0.32	0.31	0.29	0.25
産業廃棄物排出量	総量	(t)	433	417	400	390
	原単位	(t/百万円)	0.78	0.75	0.72	0.70
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0
グリーン購入量	総量	(品目)	100.0	100.0	100.0	100.0
環境負荷の少ない工事	総量	(%)	100.0(5件/5件)	100.0	100.0	100.0
完工高	総量	(百万円)	557	557	557	557

6. 環境経営活動計画（2024年度）

期間：2024年 4月 ～ 2025年 3月

項目		活動内容	担当者	期間
CO ₂ 排出量 削減	燃料使用量 削減	○現場出退勤時の乗り合わせの実施	井上 博文	2024年4月 ～ 2025年3月
		○過積載の禁止		
		○アクセル70%使用(重機・機器類)		
		○アイドリングストップやエコドライブの徹底	戸田 康幸	
		○省エネ建設機械の使用		
	電力使用量 削減	○昼休・外出時の照明消灯及び間引き消灯の実施	井上 博文	
		○冷房28℃、暖房20℃のエコ運転		
		○クールビズ・ウォームビズをし冷暖房使用を抑える	吉村 千登勢	
		○パソコン・OA機器の省電力化設定		
		○4週8休の完全達成		
用水使用量削減 (排水量削減)	○ホース使用時にストッパーをつける	吉村 千登勢		
	○水道出放し禁止			
	○社用車・工事用車両等の洗車はGSを利用する	戸田 康幸		
廃棄物削減	一般廃棄物 削減	○両面・集約コピーの使用	吉村 千登勢	
		○書類保管の電子化(PDF保管)		
		○ゴミ分別リサイクルの励行		
	産業廃棄物 削減	○倉庫内の残材料を利用する	戸田 康幸	
		○型枠材等の再使用		
		○発生の抑制を適正処理及びリサイクルの促進		
グリーン購入		○グリーン購入法商品の優先購入 (再生加熱アスファルト混合物、再生骨材、間伐材、高炉セメント 排出ガス対策建設機械、低騒音型建設機械等)	井上 博文 吉村 千登勢	
社会奉仕		○ロードボランティア活動への参加	井上 博文	
		○各工事で地域貢献を1件以上行う	戸田 康幸	
		○四万十川自然再生への参加		
環境負荷の少ない工事		○リサイクル材、県産品等の使用	井上 博文	
		○低騒音、排出ガス対策型重機の使用		
		○ICT活用によるエネルギー消費の抑制	戸田 康幸	
		○濁水の点検と防止対策の実施		
		○周辺環境に合った工法・現場づくり		

7 環境経営目標の実績

(1) 本年度実績

項目	総量 原単位	単位	2020年度	2024年度	2024年度	実績値/目標値 達成率 (%)	評価
			(令和2年度) 実績(基準年)	目標 R6.4-R7.3	実績 R6.4-R7.3		
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	15,451	14,500	16,441	113.4%	×
	原単位	(ℓ/百万円)	27.74	26.03	20.97	80.6%	○
軽油使用量	総量	(ℓ)	57,880	54,000	22,589	41.8%	○
	原単位	(ℓ/百万円)	103.91	96.95	28.81	29.7%	○
灯油使用量	総量	(ℓ)	1,100	1,030	590	57.3%	○
	原単位	(ℓ/百万円)	1.97	1.85	0.75	40.5%	○
電力使用量	総量	(kWh)	45,462	42,000	36,067	85.9%	○
	原単位	(kWh/百万円)	81.62	75.40	46.00	61.0%	○
CO ₂ 排出量	総量	(t-CO ₂)	221.0	210.0	113.7	54.1%	○
	原単位	(t-CO ₂ /百万円)	0.40	0.38	0.15	39.5%	○
用水使用量	総量	(m ³)	610	590	591	100.2%	×
	原単位	(m ³ /百万円)	1.10	1.06	0.75	70.8%	○
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	180	160	134	83.8%	○
	原単位	(kg/百万円)	0.32	0.29	0.17	58.6%	○
産業廃棄物排出量	総量	(t)	433	420	156	37.1%	○
	原単位	(t/百万円)	0.78	0.75	0.20	26.7%	○
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0%	○
グリーン購入量	総量	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0%	○
環境負荷の少ない工事	総量	(%)	100.0(5/5)	100.0	100(7/7)	100.0%	○
完工高(百万円)			557	557	784	140.8%	○

*1. 電力のCO₂ 排出量については、電気事業者別のCO₂ 排出係数

○四国電力の調整後排出係数(令和3年1月7日公表)の0.411(kg-CO₂/kWh)を使用した。

○伊丹産業(株)の調整後排出係数0.566(kg-CO₂/kWh)を使用した。

*2. グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境商品の購入金額割合(%)

*3. 環境負荷に配慮した工事

○リサイクル材、県産品等の使用

○濁水防止対策の実施

○低騒音・排ガス対策型重機の使用

○周辺環境に合った工法・現場づくり

○ICT活用によるエネルギー消費の抑制

*4. 達成率: 達成率=(実績値/目標値)×100 (%)

*5. 評価 : 達成 ○、未達成 ×

*6. 環境負荷の少ない工事=環境負荷の少ない工事件数(件)/該当する総工事件数(件)

100% (7件/7件) *繰越工事件含む

*7. 完工高については前年度完工工事及び繰越工事の3月期出来高とする。(百万円)

<環境目標未達成理由等>

○ ガソリン使用量の未達成について、全ての現場が遠方になり乗り合わせは実行できているもの使用量が増加してしまった。今後においても現状は変わらない為、車の利用状況を改善していく必要がある。
用水においては、昨年度途中から開栓が増えたことで若干数の増加となってしまった。

(2) 過去の実績

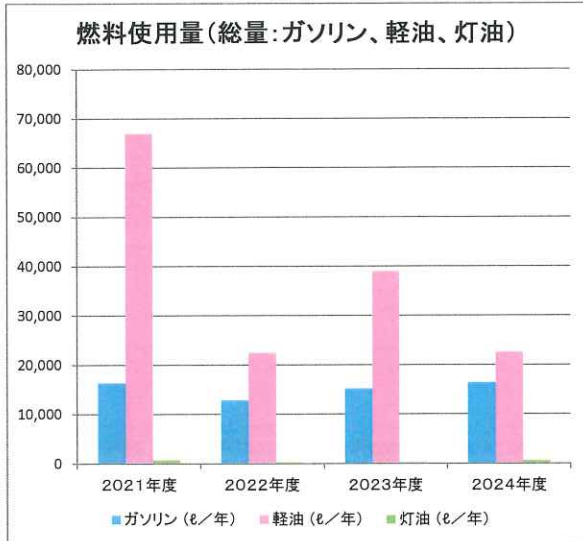
令和3年度～令和6年度を記載

項目	総量 原単位	単位	2020年度 (令和2年度) 実績(基準年)	2021年度 (R3年度) 実績	2022年度 (R4年度) 実績	2023年度 (R5年度) 実績	2024年度 (R6年度) 実績
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	15,451	16,340	12,885	15,199	16,441
	原単位	(ℓ/百万円)	27.74	16.07	17.90	16.41	20.97
軽油使用量	総量	(ℓ)	57,880	66,917	22,469	38,913	22,589
	原単位	(ℓ/百万円)	103.91	65.80	31.21	42.02	28.81
灯油使用量	総量	(ℓ)	1,100	679	238	273	590
	原単位	(ℓ/百万円)	1.97	0.67	0.33	0.29	0.75
電力使用量	総量	(kWh)	45,462	44,242	40,329	42,411	36,067
	原単位	(kWh/百万円)	81.62	43.50	56.01	45.80	46.00
CO ₂ 排出量	総量	(t-CO ₂)	221.0	231.5	106.0	154.7	113.7
	原単位	(t-CO ₂ /百万円)	0.40	0.23	0.15	0.17	0.15
用水使用量	総量	(m ³)	610	578	657	589	591
	原単位	(m ³ /百万円)	1.10	0.57	0.91	0.64	0.75
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	180.0	180.0	160.0	137.0	134.0
	原単位	(kg/百万円)	0.32	0.18	0.22	0.15	0.17
産業廃棄物排出量	総量	(t)	433	731	1,217	771	156
	原単位	(t/百万円)	0.78	0.72	1.69	0.83	0.20
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
グリーン購入量	総量	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
環境負荷の少ない工事	総量	(%)	100(5件/5件)	100(8件/8件)	100(5件/5件)	100(7件/7件)	100(7件/7件)
完工高(百万円)			557	1017	720	926	784

*1. 電力のCO₂ 排出量については、電気事業者別のCO₂ 排出係数○四国電力の調整後排出係数(令和3年1月7日公表)の0.411(kg-CO₂/kWh)を使用した。○伊丹産業(株)の調整後排出係数(平成30年12月27日公表)の0.566(kg-CO₂/kWh)を使用した。

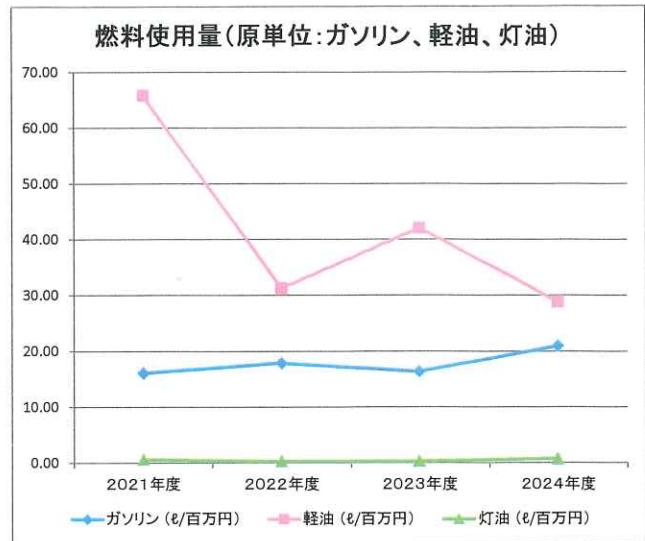
燃料使用量（総量：ガソリン、軽油、灯油）
単位：ℓ／年

年度	ガソリン (ℓ／年)	軽油 (ℓ／年)	灯油 (ℓ／年)
2021年度	16,340	66,917	679
2022年度	12,885	22,469	238
2023年度	15,199	38,913	273
2024年度	16,441	22,589	590



燃料使用量（原単位：ガソリン、軽油、灯油）
単位：ℓ／百万円

年度	ガソリン (ℓ／百万円)	軽油 (ℓ／百万円)	灯油 (ℓ／百万円)
2021年度	16.07	65.80	0.67
2022年度	17.90	31.20	0.33
2023年度	16.41	42.02	0.29
2024年度	20.97	28.81	0.75



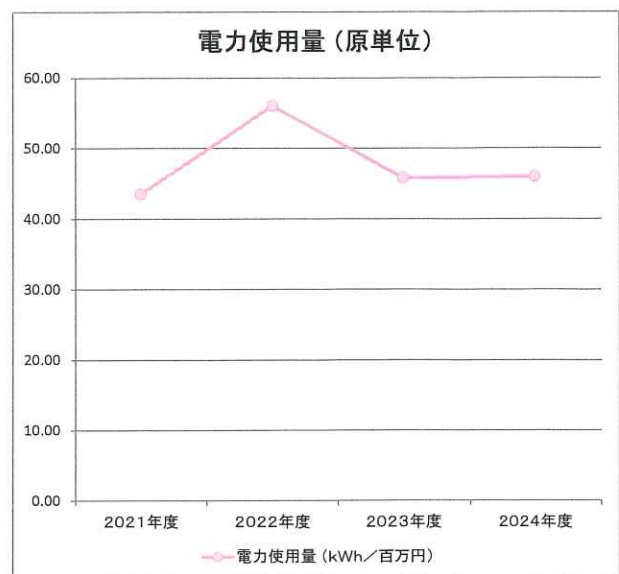
電力使用量（総量：kWh／年）

年度	電力使用量 (kWh／年)
2021年度	44,242
2022年度	40,329
2023年度	42,411
2024年度	36,067



電力使用量（原単位：kWh／百万円）

年度	電力使用量 (kWh／百万円)
2021年度	43.50
2022年度	56.01
2023年度	45.80
2024年度	46.00



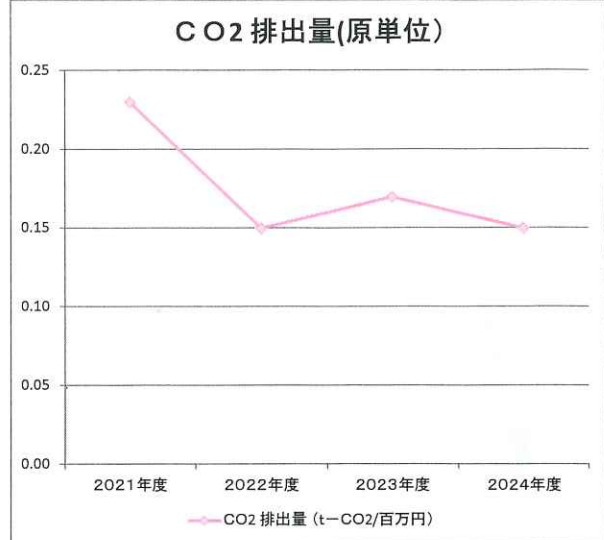
CO₂ 排出量 (総量 : (t-CO₂))

年度	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
2021年度	231.5
2022年度	106.0
2023年度	154.7
2024年度	113.7



CO₂ 排出量 (原単位 : t-CO₂/百万円)

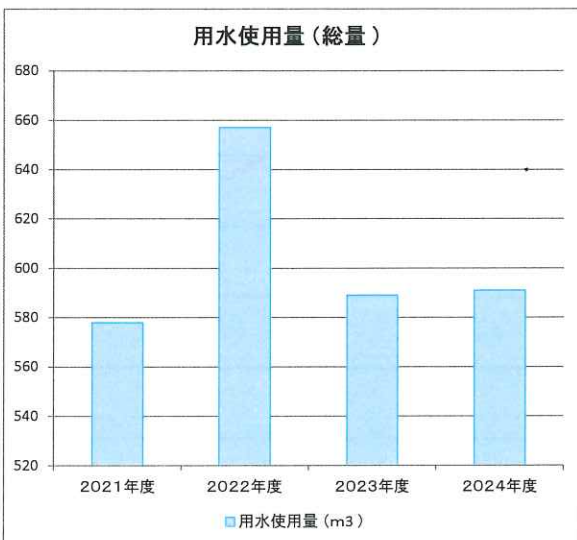
年度	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂ /百万円)
2021年度	0.23
2022年度	0.15
2023年度	0.17
2024年度	0.15



用水使用量 (総量 : m³)

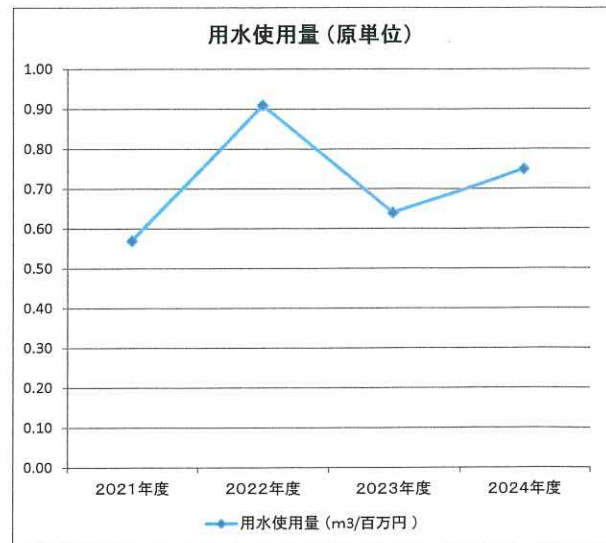
年度	用水使用量 (m ³)
2021年度	578
2022年度	657
2023年度	589
2024年度	591

* 寒波時の水道管破裂による漏水あり(2月)



用水使用量 (原単位 : m³/百万円)

年度	用水使用量 (m ³ /百万円)
2021年度	0.57
2022年度	0.91
2023年度	0.64
2024年度	0.75

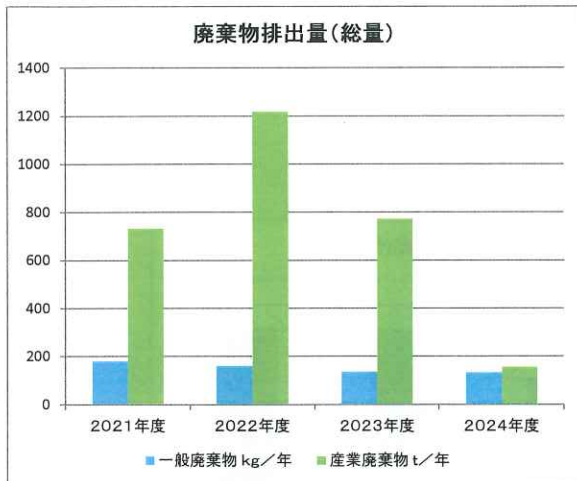


廃棄物排出量(総量:一般廃棄物、産業廃棄物)

単位:一般廃棄物 kg/年

単位:産業廃棄物 t/年

年度	一般廃棄物 kg/年	産業廃棄物 t/年
2021年度	180	731
2022年度	160	1217
2023年度	137	771
2024年度	134	156



廃棄物排出量(原単位:一般廃棄物、産業廃棄物)

単位:一般廃棄物 kg/百万円

単位:産業廃棄物 t/百万円

年度	一般廃棄物 kg/百万円	産業廃棄物 t/百万円
2021年度	0.18	0.72
2022年度	0.22	1.69
2023年度	0.15	0.83
2024年度	0.17	0.20



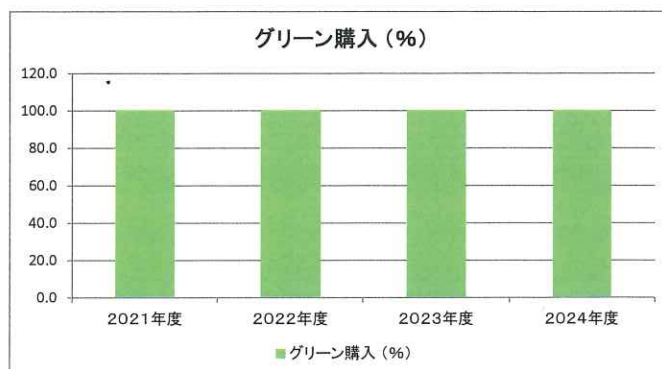
産業廃棄物再資源化率(%)

年度	産業廃棄物 再資源化率 (%)
2021年度	100.0
2022年度	100.0
2023年度	100.0
2024年度	100.0



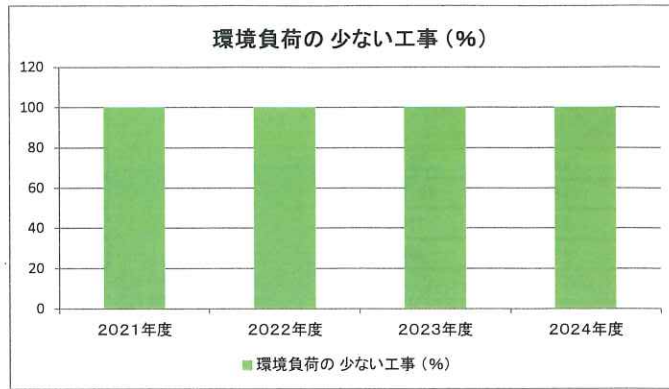
グリーン購入(%)

年度	グリーン購入 (%)
2021年度	100.0
2022年度	100.0
2023年度	100.0
2024年度	100.0



環境負荷の少ない工事(%)

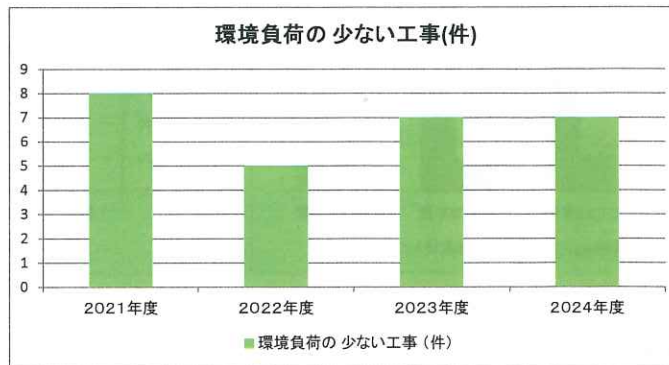
年度	環境負荷の少ない工事 (%)
2021年度	100
2022年度	100
2023年度	100
2024年度	100



環境負荷の少ない工事(件)

年度	環境負荷の少ない工事 (件)
2021年度	8
2022年度	5
2023年度	7
2024年度	7

* 繰越工事 件含む



8. 環境経営計画の取組結果とその評価及び次年度の取組

評価 (評価点は取組期間1年の点検評価結果を良いほうから5・3・1の3段階評価した平均点)

評価点 5点(非常に良い)、3点(普通に出来ている)、1点(あまり出来ていない)

取組み期間: 2024年4月～2025年3月

取組内容	評価点		評価と今後の取組み
	事務所	現場	
1. CO₂排出量削減			<p>・乗り合わせの実施はできているが、全ての現場が遠方になりガソリンの使用量増加は否めない状況となった。が、その外の燃料においては省エネ建機の使用などでかなり減少している。今後も同様な状況が続くが、更に高い意識を持って取り組んでいく。</p> <p>・目標は達成しているものの、夏場の猛暑や現場事務所の立地状況などで使用量は、前年度を超えている。温暖化の影響で、酷暑が続くことが予想されるが、サマータイム等を取り入れ対応していく。</p> <p>・目標は達成できている。工種に応じて散水や給水が必要な現場があるが河川水を利用するなど対策はされている。</p> <p>・例年の取組みにより各項目が習慣化されている事、また、ゴミ分別を意識して取組んだ結果が反映されている。引き続き意識を持って取り組む。</p> <p>・工事で余った材料等も各現場で共有できており再利用もされている。</p> <p>・グリーン購入商品の購入や使用が意識を持ってなされており、各現場に於いても高炉セメントや排ガス対策型(2次規制以上)を積極的に使用できている。</p> <p>・ロードボランティア活動は毎月実施しており、現場においても地域への協力も積極的に取り組んでいる。 本社事務所においても、同様に社会貢献ができており、今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>・例年の省エネ機械の導入や低燃費車両等の購入がなされ、それらが増えている為、ハード面に於いては充実している。</p>
《燃料使用量削減》			
○現場出退勤時の乗り合わせの実施	-	5	
○過積載の禁止	-	5	
○アクセル70%使用(重機・機器類)	-	5	
○アイドリングストップやエコドライブの徹底	5	5	
○省エネ建設機械の使用	-	5	
《購入電力削減》			
○昼休・外出時の照明消灯及び間引き消灯の実施	5	3	
○冷房28℃、暖房20℃のエコ運転	5	3	
○クールビズ・ウォームビズをし冷暖房使用を控える	5	5	
○パソコン・OA機器の省電力化設定	5	5	
○4週8休の完全達成	5	5	
2. 用水使用量削減			
○ホース使用時にストッパーをつける	5	3	
○水道開放し禁止	5	5	
○社用車・工事用車両等の洗車はGSを利用する	3	5	
3. 一般廃棄物削減			
○両面・集約コピーの使用	5	5	
○書類保管の電子化(PDF保管)	5	5	
○ゴミ分別リサイクルの励行	5	5	
4. 産業廃棄物削減			
○倉庫内の残材料を利用する	-	3	
○型枠材等の再使用	-	5	
○発生の抑制と適正処理及びリサイクルの促進	-	5	
5. グリーン購入			
○グリーン購入法商品の優先購入 ・再生加熱アスファルト混合物・再生骨材・間伐材・高炉セメント ・排出ガス対策型建設機械・低騒音型建設機械等	5	5	
6. 社会奉仕			
○ロードボランティア活動への参加	5	5	
○各工事で地域貢献を1件以上行う	-	5	
○四万十川自然再生協議会への参加	5	5	
7. 環境に配慮した工事の提案			
○リサイクル材、県産品等の使用	-	5	
○低騒音、排出ガス対策型重機の使用	-	5	
○ICT活用によるエネルギー消費の抑制	-	5	
○濁水の点検と防止対策の実施	-	5	
○周辺環境に合った工法・現場づくり	-	5	
総括	総合点=合計点÷評価項目数= 205 ÷ 43 = 4.77		4.8 点
<p>○ 今年度は現場が遠方だった為ガソリン使用量が増加したが、省エネ建機などの使用で全体的な燃料使用量は減少している。その外の項目についても、各自の意識が高くしっかりとした取組が出来ている。</p>			

* 1点の項目については、是正処置を取り再発防止に努める。又、再度教育を実施し、取組向上となるよう環境意識を向上させる。

9. 次年度の環境経営目標(2025年度)

(1) 単年度目標

項目	総量 原単位	単位	基準年(見直し) 2020年度(実績) R2.4-R3.3	2025年度 目標 R7.4-R8.3
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	15,451	14,300
	原単位	(ℓ/百万円)	27.74	25.67
軽油使用量	総量	(ℓ)	57,880	53,300
	原単位	(ℓ/百万円)	103.91	95.69
灯油使用量	総量	(ℓ)	1,100	1,010
	原単位	(ℓ/百万円)	1.97	1.81
電力使用量	総量	(kWh)	45,462	41,900
	原単位	(kWh/百万円)	81.62	75.22
CO ₂ 排出量	総量	(t-CO ₂)	221	200
	原単位	(t-CO ₂ /百万円)	0.40	0.36
用水使用量	総量	(m ³)	610	580
	原単位	(m ³ /百万円)	1.10	1.04
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	180.0	170.0
	原単位	(kg/百万円)	0.32	0.31
産業廃棄物排出量	総量	(t)	433	417
	原単位	(t/百万円)	0.78	0.75
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	100.0	100.0
グリーン購入量	総量	(%)	100.0	100.0
環境負荷の少ない工事	総量	(%)	100 (5件/5件)	100.0
完工高	総量	(百万円)	557	557

*1. 電力のCO₂ 排出量については、電気事業者別のCO₂ 排出係数

○四国電力の調整後排出係数(令和3年1月7日公表)の0.411(kg-CO₂/kWh)を使用した。

○伊丹産業(株)の調整後排出係数(平成30年12月27日公表)の0.566(kg-CO₂/kWh)を使用した。

*2. グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境商品の購入金額割合(%)

*3. 環境負荷の少ない工事

○リサイクル材、県産品等の使用

○低騒音、排出ガス対策型重機の使用

○ICT活用によるエネルギー消費の抑制

○濁水防止対策の実施

○周辺環境に合った工法・現場づくり

※環境負荷の少ない工事=環境負荷の少ない工事件数(件)/該当する総工事件数(件)

○○% (件/ 件)

(2) 中長期目標

項目	総量 原単位	単位	2020年度	2026年度	2027年度	2028年度
			(R2年度 実績) R2.4~R3.3	目標 R8.4~R9.3	目標 R9.4~R10.3	目標 R10.4~R11.3
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	15,451	14,000	13,600	13,400
	原単位	(ℓ/百万円)	27.74	25.13	24.42	24.06
軽油使用量	総量	(ℓ)	57,880	52,200	52,000	51,000
	原単位	(ℓ/百万円)	103.91	93.72	93.36	91.56
灯油使用量	総量	(ℓ)	1,100	1,000	900	800
	原単位	(ℓ/百万円)	1.97	1.80	1.62	1.44
電力使用量	総量	(kWh)	45,462	41,000	40,200	40,000
	原単位	(kWh/百万円)	81.62	73.61	72.17	71.81
CO ₂ 排出量	総量	(t-CO ₂)	221	190	180	170
	原単位	(t-CO ₂ /百万円)	0.40	0.34	0.32	0.31
用水使用量	総量	(m ³)	610	560	550	540
	原単位	(m ³ /百万円)	1.10	1.01	0.99	0.97
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	180.0	160.0	140.0	130.0
	原単位	(kg/百万円)	0.32	0.29	0.25	0.23
産業廃棄物排出量	総量	(t)	433	400	390	380
	原単位	(t/百万円)	0.78	0.72	0.70	0.68
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0
グリーン購入量	総量	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0
環境負荷の少ない工事	総量	(%)	100.0(5件/5件)	100.0	100.0	100.0
完工高	総量	(百万円)	557	557	557	557

9. 次年度の環境経営計画（2025年度）

期間：2025年 4月 ～ 2026年 3月

項目		活動内容	担当者	期間
CO ₂ 排出量 削減	燃料使用量 削減	○現場出退勤時の乗り合わせの実施	井上 博文	2025年4月 ～ 2026年3月
		○近隣への徒歩移動の実施		
		○アクセル70%使用(重機・機器類)		
		○アイドリングストップやエコドライブの徹底	戸田 康幸	
		○省エネ建設機械の使用		
	電力使用量 削減	○昼休・外出時の照明消灯及び間引き消灯の実施	井上 博文	
		○冷房28℃、暖房20℃のエコ運転		
		○クールビズ・ウォームビズで冷暖房の使用を抑える	吉村 千登勢	
		○パソコン・OA機器の省電力化設定		
		○NO残業の実施		
用水使用量削減 (排水量削減)	○ホース使用時のストッパー利用	吉村 千登勢 井上 博文		
	○水道出放し禁止			
	○社用車・工事用車両等の洗車はGSを利用する			
廃棄物削減	一般廃棄物 削減	○両面・集約コピーの使用	吉村 千登勢	
		○書類保管の電子化(PDF保管)		
		○ゴミ分別リサイクルの励行		
	産業廃棄物 削減	○倉庫内の残材料を利用する	戸田 康幸	
		○型枠材等の再使用		
		○発生の抑制を適正処理及びリサイクルの促進		
グリーン購入		○グリーン購入法商品の優先購入 (再生加熱アスファルト混合物、再生骨材、間伐材、高炉セメント 排出ガス対策建設機械、低騒音型建設機械等)	井上 博文 吉村 千登勢	
社会奉仕		○ロードボランティア活動への参加	井上 博文	
		○各工事で地域貢献を1件以上行う	戸田 康幸	
		○四万十川自然再生への参加		
環境負荷の少ない工事		○リサイクル材、県産品等の使用	井上 博文	
		○低騒音、排出ガス対策型重機の使用		
		○ICT活用によるエネルギー消費の抑制	戸田 康幸	
		○濁水の点検と防止対策の実施		
		○周辺環境に合った工法・現場づくり		

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

NO	建設業:適用する環境関連法令	遵守事項	運用	適用 ○×	担当部門	測定頻度 実施時期	文書・記録	監視測定・遵守評価	評価 ○×			
1	廃棄物 処理法	産業廃棄物 汚泥、廃プラ、コンクリ・アスファルト破片、木くず、金属くず、がれき類 (特別管理産業廃棄物は取り扱いしない。専門業者に委託する)	委託基準	委託先の許可確認 委託契約の締結・契約書5年間保管	研修周知	○	総務	年1回	委託先許可証 契約書類一覧	・各工事での中間処分業者、収集 運搬業者との契約確認(R7.4.15)	○	
			処理基準	運送車体へ表示・運搬内容記載携帯	研修周知	○	総務	都度			・車体表示確認 (R7.4.15)	○
			保管基準	産業廃棄物が運搬されるまでの 保管に関する技術上の基準	現場実態日 常確認	○	工務	年1回	現場都度確認 持帰保管しない		・一次保管等無し(R7.4.15)	○
			現地確認	中間処理場(リサイクル工場)	情報収集	○	工務	年1回	工事日誌確認書		・現地を確認 (R7.4.15)	○
			マニフェスト 管理票交付等	適合票一品一様の交付・ 漏れのない記述事項・量含む	指差し呼称	○	工務	交付都度	保管記録	・マニフェスト及び排出一覧表 を確認 ・A、B2、D、E票保管確認 ・自社搬出伝票 B1、C2保管 ・記載事項確認 ・R6年度県へ提出確認 (R7.4.23 / 提出)	○	
				管理票回収	D票90日	運用10日	○	総務	都度			保管回収記録
					E票180日	運用10日	○	総務	都度			保管回収記録
				未回収戻り 票の報告	未回収時遅れの理由 及び対策を県知事へ報告	予防・回収	○	総務	都度			法違反・報告書
				保管義務	4枚セットA・B2・D・E 5年間(交付日から)	B2保管	○	総務	都度			保管記録
						A票保管	回収照合欄に記載	指差し呼称	○			総務
				管理票 交付状況 報告書	高知県知事へ前年度 処理量の報告	毎年4月 集計開始	○	総務	毎年6月末 までに提出			指定報告書
			処理困難 通知の対応	処理困難通知受理後、未回収戻り 票時30日以内に措置報告書を県に 提出。電子マニフェストも同様。	常に処分場 とのコミュニケ 情報収集	○	総務	受理後都度	処理困難通知対応 報告書・処置結果	・現時点での該当なし (R7.4.15)	○	
			措置命令	上記違反時、措置命令の対象 違反時5年以下の懲役、1000 万円以下の罰金	無過失責任 念頭に処理	○	総務	受理後都度	上記等保管記録	・現時点での該当なし (R7.4.15)	○	
			建設廃材 場外保管 事前届出	建設事業者が建設廃材を移動、30 0㎡以上の保管場所で保管時、県 知事届出。止める時は中止届出。	産廃物保管 しない	○	総務 工務	都度	工事日誌記録	・現時点での該当なし (R7.4.15)	○	
			不法投棄 罰則強化	不法投棄・未遂時 3億円罰金	繰返し周知 徹底	○	総務 工務	都度		・現時点での該当なし (R7.4.15)	○	
野外焼却 の禁止	何人も処理基準に従って行い場合 以外には焼却の禁止。特に悪臭が 生ずる物の焼却禁止	繰返し周知 徹底	○	工務	都度	工事日誌	・現時点での該当なし (R7.4.15)	○				
掲示版設置 (60×60)	積上高さ、風雨、悪臭等発生防止 種類・担当者・量等保管基準明記	緊急実施時 社長決裁	○	工務	都度	工事日誌	・各現場とも看板設置確認 (R7.4.15)	○				
多量排出 事業者	前年度発生量が1000t以上。特別 管理産業廃棄物50t以上。	推移量☑	○	総務	1年1回	決算時に確認	令和6年度、提出確認 (本年度はなし)	○				

NO	建設業:適用する環境関連法令	遵守事項	運用	適用 ○×	担当部門	測定頻度 実施時期	文書・記録	監視測定・遵守評価	評価 ○×	
2	建設リサイクル法	①解体工事80m2以上 ②新築・増築工事 500m2以上 ③修理改修工事 1億円以上 ④他工作物に関する 工事(土木工事) 500万円以上	発注者への書面に特定設資材: コンクリート(プレキャスト鉄板コンクリート板 含む)、木材、アスファルト、コンクリート	研修で周知 徹底	○	工務	都度	・各工事とも分別解体計画及び 完了報告を実施、再生資源利用 や促進計画書(実施書)等確認 (R7.4.15)	○	
3	建設廃棄 処理マ ニュアル	産業廃棄物の処理 処理・委託	汚泥、廃プラ、建設、木くず、金属くず、建 設廃材、ゴムくず、コンクリート破片等 発注者との連絡調整・管理及び施工体制 の整備	マニフェスト に基づく適 正処理の実 施	○	工務	都度	収集・運搬及び処 分業者の許可証 の確認 中間処理 場・最終処分場の 確認	マニフェスト及び排出一覧表を 確認又、処理場及び収集運搬 業者の契約・許可票確認 (R7.4.15)	○
4	オフロード 法	フルドーザ、クローラ クレーン、くい打機 ドリルジャンボ等	不適合車両使用者、30万円 以下の罰金	・適合照明 ・H18.4月 施行前販売 照明	○	工務	排出ガス対策型 使用・写真等	R6年度の各工事で使用した対 策車両を確認 (R7.4.15)	○	
5	不適正燃 料の使用 禁止	粒子状物質等を増 大 させる行為	混合燃料の禁止 使用禁止命令違反者50万円 以下罰金	自覚	○	総務	特定物質使用設 備の有無確認記 録	燃料伝票を確認 (R7.4.15)	○	
6	排出ガス 対策型建 設機械普 及促進規 定	国土交通省直轄工 事	トンネル工事用一般工事用(バックホウ、ト ラクタショベル、発電機等)	排出ガス対 策型であるこ との確認	○	工務	排出ガス対策型 使用・写真等	R6年度の各工事で使用した対 策車両を確認 (R7.4.15)	○	
7	騒音規制 法	くい打抜機、ブ レーカ 舗装用破砕機使用 する作業	特定建設作業 適用指定地域	・知事へ7日 前までに届 出 ・作業敷地境 界にて85db 以下	○	工務	都度	・市町村へ事前確認 ・届出書 規制様式9条但し 条例等上乗せ規 制有	情報記録を確認周辺住民から の苦情無し (R7.4.18)	○
8	振動規制 法	くい打抜機、ブ レーカ 舗装用破砕機使用 する作業	特定建設作業 適用指定地域	・知事へ7日 前までに届 出 ・作業敷地境 界にて75db 以下	○	工務	都度	・市町村へ事前確認 ・届出書 規制様式9条但し 条例等上乗せ規 制有	情報記録を確認周辺住民から の苦情無し (R7.4.18)	○

NO	建設業:適用する環境関連法令	遵守事項	運用	適用 ○×	担当部門	測定頻度 実施時期	文書・記録	監視測定・遵守評価	評価 ○×	
9	セメント及びセメント系の固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領	国土交通省 農林水産省 の直轄工事	六価クロム溶出試験 の実施	地盤改良工 事 セメント系固 化材使用	○	工務	当社では、生Con 業者を信用して作 業。 但し、基準値以内 の材料確認。 受ロット記録	R6年度での実績は無し (R7.4.18)	○	
10	火薬類取締法	許可不要の火薬 使用	Con破砕機:150個以下消費 6ヶ月以内4000個貯蔵	消費の技術 基準参照	○	工務	都度	原則、収支監視 年1回警察署へ届 出	帳簿による出納管理 R6年度での実績は無し (R7.4.18)	○
11	河川法	土地の形状を変更 工作物等の改修	河川保全区域内での掘削、 盛土等により土地の形状 が変わる場合	国土交通省 都道府県 に届出(着手 前)	○	工務	都度	施工前1回 河川法等に於ける 処分の審査基準策 定等	R6年度での実績は無し (R7.4.18)	○
12	四万十川 条例	四万十川流域	四万十川域内での掘削、 盛土等により四万十川に 著しい濁りが発生する作業		○	工務			R6年度での実績は無し (R7.4.18)	○
13	建設工事 公衆災害 防止対策 要綱	掘削工事、山留工 事 地盤改良工事、地 下工事	「地盤沈下」市街地等の事故が発生した場合、公衆に危害、迷惑を及ぼす恐れのある区域	周辺住民へ の周知、埋 設物の確 認、土留工 の管理排水 処理、杭鋼 矢板の引抜 埋戻し事の 地盤沈下防 止措置、掘 削土排出時 の塵芥、騒 音防止措置	○	工務	都度	有資格者	土工事において有資格者を配 置 問題・苦情なし (R7.4.18)	○
		工事全般 解体工事	「粉塵対策」建設工事の施工に当たって公衆に危害、迷惑を及ぼす恐れのある地域		○	工務	都度	解体工事資料一式	情報記録を確認周辺住民から の苦情無し (R7.4.18)	○

NO	建設業:適用する環境関連法令		遵守事項	運用	適用 ○×	担当部門	測定頻度 実施時期	文書・記録	監視測定・遵守評価	評価 ○×
14	グリーン 購入法	建設、土木工事は、元請の指示に従う事。行政・自治体のグリーン購入を区分けする。	行政から発生する部材等は、国土交通省のグリーン調達品を使用する事	国土交通省 ネット検索	○	工務	都度	施工計画及び使用したグリーン調達品の記録	各現場事務用品 ・備品等にて使用(R7.4.18)	○
		事業者の一般努力義務 事務用品等のエコ商品購入	アクリル冊子から購入選択		○	工務	都度	プログラム記録	各現場事務用品 ・備品等にて使用 (R7.4.18)	○
15	労働安全 衛生法	(次回発行日 2025年 4月頃)	各種 ・労働安全衛生規則 ・クレーン等の安全規則 ・酸素欠乏症等防止規則 他 ・ 熱中症対策 ・ ストレスチェック	各種作業:有 資格者	○	工務	都度 現場代理人 確認	施工プロセス等 社内検査記録 ・安全日誌・KYK ・ 施工計画書	各現場ヒアリング及び届出 書類を確認 問題なし (R7.4.18)	○
16	建設業法	監督官庁への各種 届出、許可等	・建設工事の請負契約の適正化	各種許可及び 有資格者等	○	工務	都度	工事契約関係書類 下請契約関係書類 等	各現場ヒアリング及び届出 書類を確認 問題なし (R7.4.18)	○
17	浄化槽法		定期点検及び清掃 法定点検/年1回	各々、ライセ ンス業者から の期日を確認し依頼	○	総務	都度	検査記録3点セット	・各検査実施 法定検査 (R6.11.11) 定期点検及び清掃 (R6.7.22/R6.10.21/R7.1.31/ R7.3. 28)	○
18	フロン排 出抑制法	第13版	簡易点検:3か月に1回以上 定期点検:3年に1回(7.5kW~50kW)	簡易点検は 始業点検時 定期点検は 特定自主検 査時	○	工務	都度	重機始業点検 特定自主検査表	各現場の始業点検記録で確認 (R7.4.18)	○
環境法規等の違反の有無			令和6年4月1日より令和7年3月31日までの間、環境関連法規等の違反、訴訟及び外部からの苦情・要望は有りませんでした。							

* 令和7年4月以降改正 ストレスチェック実施に対し、次年度より監視測定する。

* 令和7年6月以降改正 熱中症対策に対し体制を整備(掲示物等)し、次年度より監視測定する。

11. 代表者による全体の評価と見直し
・指示結果

日時: 2025年 4月 28日
 出席者: 植田 英喜(代表取締役社長)
 井上 博文(環境管理責任者)
 吉村 千登勢(環境副責任者)

インプット情報

1. 環境目標の達成状況

① ガソリン使用量	原単位割合	目標達成(原単位)
② 軽油使用量	原単位割合	目標達成(原単位)
③ 灯油使用量	原単位割合	目標達成(原単位)
④ 電気使用量	原単位割合	目標達成(原単位)
⑤ CO ₂ 排出量	原単位割合	目標達成(原単位)
⑥ 用水使用量	原単位割合	目標達成(原単位)
⑦ 一般廃棄物削減	取組状況 30/30	OK ③～⑦の採点は「5.
⑧ 産業廃棄物削減	取組状況 13/15	OK 環境活動計画の取組
⑨ グリーン購入	取組状況 10/10	OK 結果とその評価」で
⑩ 社会奉仕活動	取組状況 25/25	OK の評価点を記載して
⑪ 環境に配慮した工事の提案	25/25	OK います。

総合得点 4.8点/5.0点

目標達成

昨年度に続き全項目達成となったのは、各自の意識の高さからである。引き続き高い意識を持って、全ての項目に対して取組んでいく。

また、国・県工事に於いて例年以上の高評価がされており表彰工事の期待が高い。

2. 法令遵守状況

2024年4月1日より2025年3月31日までの間、
 環境関連法規等の違反、訴訟及び外部からの苦情
 ・要望は有りませんでした。

作成者:	井上 博文
作成日:	2025年 4月 28日

代表者による全体の評価と見直し・指示

○ 変更の必要性の判断

- | | |
|--|--|
| 1. 環境経営方針の変更 (有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>) | 4. 環境経営システムの変更 (有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>) |
| 2. 環境経営目標の変更 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>) | 5. その他変更に必要な項目 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>) |
| 3. 環境経営計画の変更 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>) | 6. 実施体制の変更 (有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>) |

○ 全体の評価

世界情勢は、ロシアによるウクライナ侵攻も丸3年が過ぎ、その間、イスラエル-ハマス、更には米中の覇権争いからくるトランプ関税の問題と不透明さが経済活動においてもより顕著に表れてきた。今後も、食料及びエネルギー価格の上昇の幅、影響期間がどの程度長引くか等々、全く見通せない状況となってきている。

会社に落とし込んでみると、検討課題であった山路本店における太陽光発電システムと蓄電システムの導入・運用開始がなされ来年度の結果が楽しみである。それにより、本社への導入も検討していきたい。尚、連絡車両の買い替えに関しても電気自動車の購入を検討していく。

現在の達成状況から鑑みて、大幅な見直しの必要性は感じない、今期も現システムを効率的に運用して、更なる持続可能な社会の発展に向けて、皆で努力していく。

植田英喜

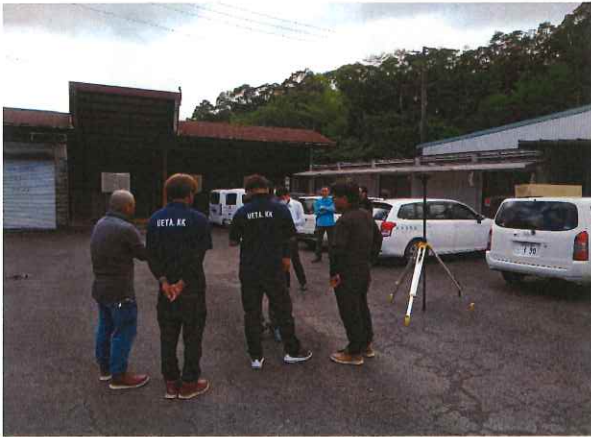
低燃費車両購入(4tユニック車)



低燃費車両購入(4tダンプ車)



社内勉強会(ICT機器の説明)



鮎の放流に参加(伊与木川を守る会)



出前授業(ICT) 幡多農業高校



現場体験入学 幡多農業生

